

令和2年度広島県生涯学習研究実践交流会  
令和3年3月6日(土)

# ポストコロナ時代の 学び・つながり

独立行政法人教職員支援機構  
つくば中央研修センター長  
清國 祐二

# 生涯学習・社会教育をめぐる現状・課題

(第10期中央教育審議会生涯学習分科会における議論の整理)

## ・社会的包摂の実現

共生社会の実現に向けた社会教育のより積極的な役割(価値と困難)

## ・人生100年時代と生涯学習・社会教育

マルチステージ(ポストリカレント・システム)における学習環境の整備

## ・Society 5.0 に向けたこれからの生涯学習・社会教育

ICT化を捉えた新しい学びや交流の創出(本研究交流会)

## ・地域活性化の推進

地域をベースとした学びのプラットフォームの形成

## ・子供・若者の地域・社会への主体的な参画と

## 多世代交流の推進

消費者意識から主権者意識への転換

学校教育(大学含む)との深いつながりづくり(脱形式・脱表面)

さて、Society 5.0 の到来によって

生涯学習・社会教育を取り巻く環境は  
人々の学びのスタイルは  
地域や社会への責任の果たし方は  
多様な暮らしぶりの人々の関り方は

どう変わるのでしょうか

# 何が変わるのか？

## “学びのスタイル”

- ・・・究極の「脱しがらみ」のスタイルでもある  
オンライン学習（アプリ・Youtube・LMS等）

### 一方で

- ・・・学びの先には発信・受信する「人」がいる  
不特定多数であることの方が優位か？
- ・・・「対面」への需要が膨らんだように思えるが  
それは長続きするのか、どうか？

# “画面越しの学び”



違和感がありますか？それとも・・・

# “想像力”を働かせて



教室に限らず、移動中、公共スペース(室内・屋外)、  
レストラン、リビング・・・娯楽もあるでしょうが

# 何が変わるのか？

## “市民性”はようになる？

・・・Society 5.0 は重要な分岐点では？

課題解決＝経済的利益の視点

技術革新＝消費者意識・志向の助長

バランスを整えること

課題解決＝生活者の幸福の視点

技術革新＝“回復”への視点の包含

**「社会的包摂」「共生社会」の実現へ**

## 経済発展

- エネルギーの需要増加
- 食料の需要増加
- 寿命延伸、高齢化
- 国際的な競争の激化
- 富の集中や地域間の不平等

## 社会的課題の解決

- 温室効果ガス（GHG）排出削減
- 食料の増産やロスの削減
- 社会コストの抑制
- 持続可能な産業化
- 富の再配分や地域間の格差是正

IoT、ロボット、AI等の先端技術をあらゆる産業や社会生活に取り入れ、格差なく、多様なニーズにきめ細かに対応したモノやサービスを提供

「Society 5.0」へ

経済発展と社会的課題の解決を両立

[内閣府作成]

出典：内閣府HP

[https://www8.cao.go.jp/cstp/society5\\_0/index.html](https://www8.cao.go.jp/cstp/society5_0/index.html)

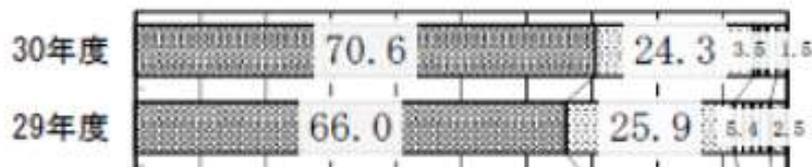
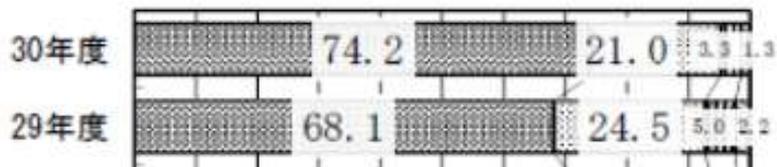
# 【児童生徒質問紙】人の役に立つ人間になりたいと思いますか

回答割合

小学校

中学校

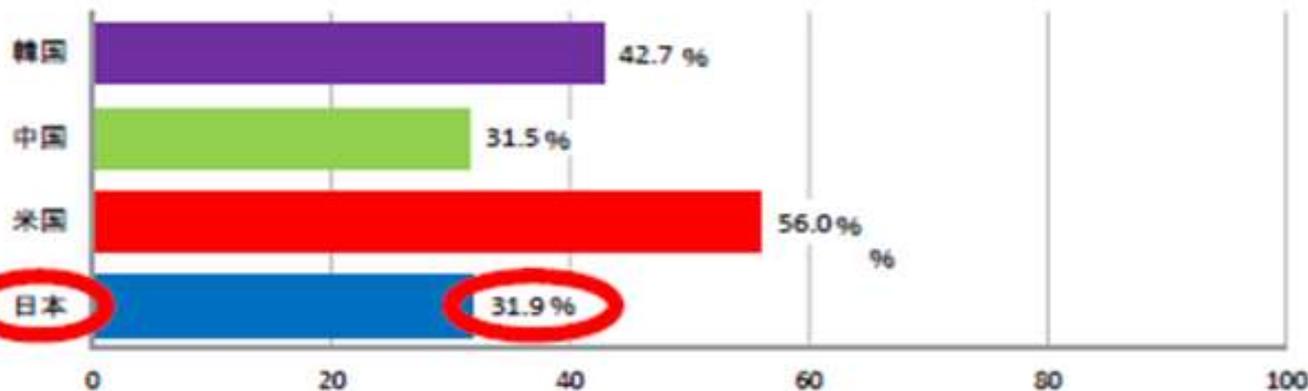
児童生徒は「人」に何を重ね合わせているのでしょうか？



平成30年度全国学力・学習状況調査結果

(上)94.9%と(下)31.9%との違いは？

- 問「あなたはこれからの人生をどのような目標を持って生きていきたいですか」について、「社会のために役立つ生き方をする事」の項目に「とてもそう思う」「まあそう思う」と答えた生徒の割合（高校生）



出典：  
 (独) 国立青少年教育振興機構  
 「高校生の生活と意識に関する調査  
 報告書-日本・米国・中国・韓国  
 の比較-」(2015年8月)  
 より文部科学省作成

# 何が変わるのか？

## “学校・学力”の動向

・・・学校に変容が求められている！

「社会に開かれた教育課程」

「地域とともにある学校づくり」

背景には求められる人材像がある

地域社会の解決（正解のない問）に取り組む

地域・社会に変革をもたらす

共生社会（人間らしく暮らせる社会）を実現する

# 「社会に開かれた教育課程」 (学習指導要領)

## 学校教育は学校内に閉ざされない

- ①社会や世界の状況を幅広く視野に入れ、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を持ち、教育課程を介してその目標を社会と共有していくこと。
- ②これからの社会を創り出していく子供たちが、社会や世界に向き合い関わり合い、自分の人生を切り拓いていくために求められる資質・能力とは何かを、教育課程において明確化し育んでいくこと。
- ③教育課程の実施に当たって、地域の人的・物的資源を活用したり、放課後や土曜日等を活用した社会教育との連携を図ったりし、学校教育を学校内に閉じずに、その目指すところを社会と共有・連携しながら実現させること。

社会との関わりの文脈で教育を再構成する視点

# 国際動向（OECD Education 2030プロジェクト）

## 学習者のエイジェンシー（≡社会の形成者）

エイジェンシーは、社会参画を通じて人々や物事、環境がより良いものとなるように影響を与えるという責任感を持っていることを含意する。また、エイジェンシーは、進んでいくべき方向性を設定する力や、目標を達成するために求められる行動を特定する力を必要とする。

エイジェンシーの発揮を可能としていくためには、教育者は学習者の個性を認めるだけでなく、例えば、教師や仲間たち、家族、コミュニティなど、彼らの学習に影響を与えているより幅広い関係性を認識する必要がある。この学習枠組みの基礎となる概念が、「共同エイジェンシー」であり、すなわち、学習者が目指す目標に向かって進んでいくことを支える、双方向的で互恵的な協力関係のことである。この文脈では、誰もが学習者とみなされるのであり、それは生徒だけでなく、教師や学校管理職、保護者やコミュニティの人々も含むものである。

出典：文部科学省初等中等教育局教育課程課教育課程企画室  
作成資料「OECD Education 2030プロジェクトについて」

# 国際動向（OECD Education 2030プロジェクト）

## 未来を築くコンピテンシー（≡知識やスキル、態度及び価値を動員する（使いこなす）能力）

変革を起こす力のあるコンピテンシー（要約）

### ①新たな価値を創造する力

今後のイノベーションは、他者との協力と協働により引き起こされる。この能力は、適応力、創造力、好奇心や、新しいものに対して開かれた意識を含む。

### ②対立やジレンマを克服する力

矛盾した考えや相容れない考えや論理、立場についても、それらの相互のつながりや関連性を考慮しながら、より統合的な形で考え行動することを学習する必要がある。

### ③責任ある行動をとる力

この能力の中核には、自己調整の考え方があり、自己コントロール、自己効力感、責任感、問題解決、適応力を含む。（中略）思春期は、もはや、単に脆く傷つきやすい時期としてではなく、責任感を醸成する機会として捉えられる。

# 転換点に立って

## 切れ目のない教育を

- ・・・学校教育のベクトルを確認しましょう
- ・・・生涯学習・社会教育の目指すべき方向も確認できたのではないのでしょうか
- ・・・現象から目をそらすことはできませんが、過度にとらわれ過ぎず、

**人生＝教育** で捉えなおしましょう

ご清聴ありがとうございました

生涯学習・社会教育の未来を明るくするために  
今後とも力を合わせて邁進しましょう